

景観形成の考え方

(仮称)みなとみらい21中央地区37街区開発計画

事業者： 合同会社KRF48

[構成企業]: パナソニックホームズ株式会社

ケネディクス株式会社

鹿島建設株式会社

設計者： KAJIMA DESIGN

株式会社三菱地所設計

指摘事項①

01. 分節化による圧迫感の低減
02. 都市スケールでの外装の考え方
03. 街並みとの連続性を意識した外装
04. 外装分節の考え方
05. 高層部（ホテル）外装計画
06. 中層部（オフィス）外装計画
07. 外観検討 みなとみらい大通り側パース
08. 外観検討 グランモール側パース

指摘事項②

09. みなとみらい21地区の人の流れ 地上レベル
10. みなとみらい21地区の人の流れ デッキレベル
11. 4つの広場の位置づけ
12. 1F平面図
13. 2F平面図
14. 低層部の構成
15. 4つの広場①
16. 4つの広場②



今回案

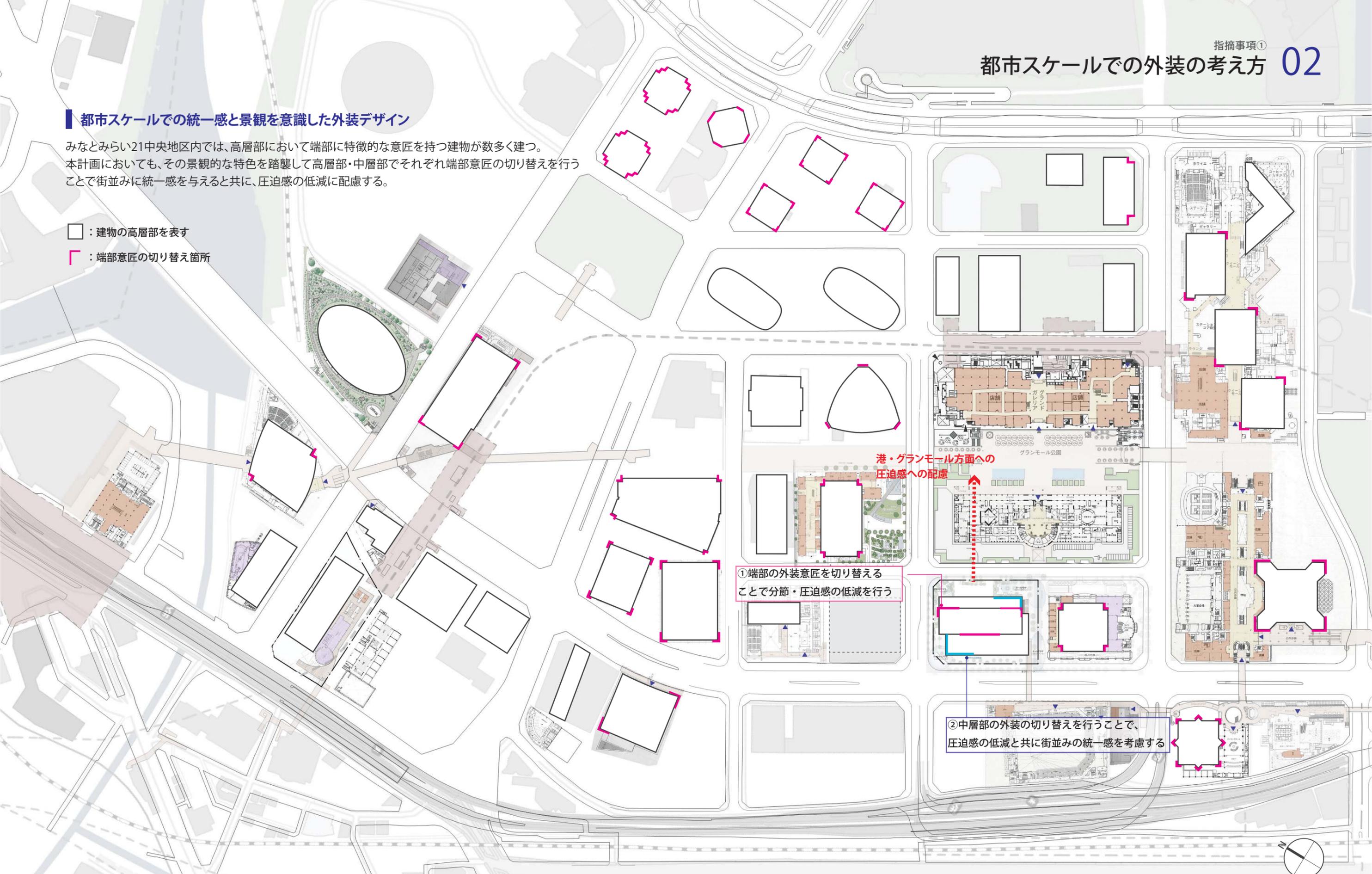


前回都市美審案

都市スケールでの統一感と景観を意識した外装デザイン

みなとみらい21中央地区内では、高層部において端部に特徴的な意匠を持つ建物が数多く建つ。本計画においても、その景観的特色を踏襲して高層部・中層部でそれぞれ端部意匠の切り替えを行うことで街並みに統一感を与えると共に、圧迫感の低減に配慮する。

- : 建物の高層部を表す
- ┌ : 端部意匠の切り替え箇所



港・グランモール方面への
圧迫感への配慮

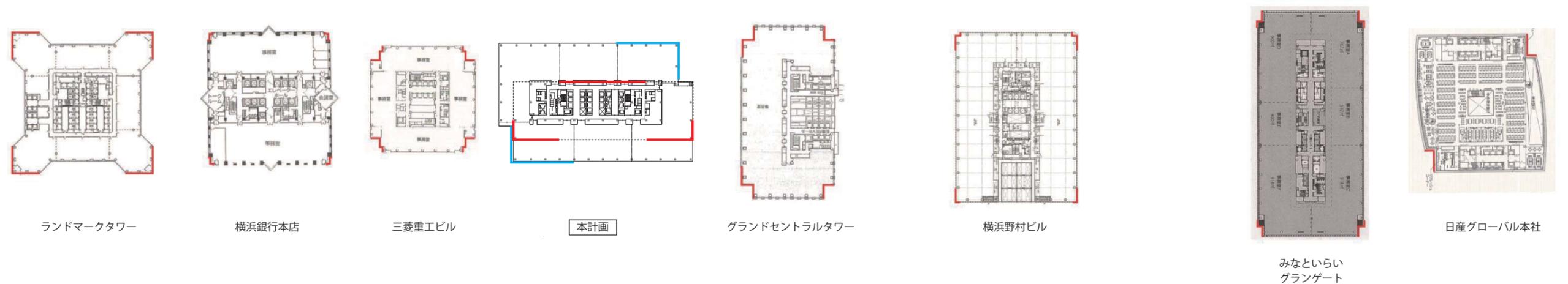
①端部の外装意匠を切り替える
ことで分節・圧迫感の低減を行う

②中層部の外装の切り替えを行うことで、
圧迫感の低減と共に街並みの統一感を考慮する



■ グランモールからの沿道景観を形成する統一感のある街並みの形成

遠景・中景にそれぞれ対応した構成とするとともに、みなとみらい21 中央地区に特徴的な端部意匠の切替えを本計画でも踏襲することで、グランモールからの沿道景観を形成するような統一感のある街並みを意識した外観デザインとする。分節された外装が圧迫感の低減に寄与するとともに、周辺建物との調和をに配慮している。



ボリューム分節の考え方

□高層部(ホテル)の分節の考え方

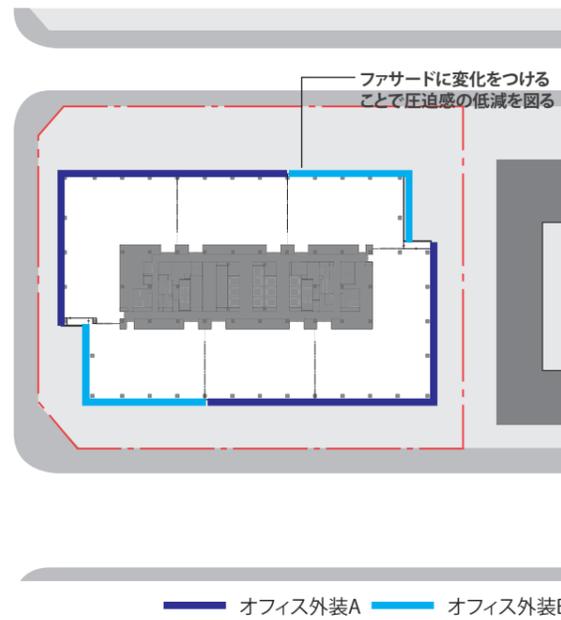
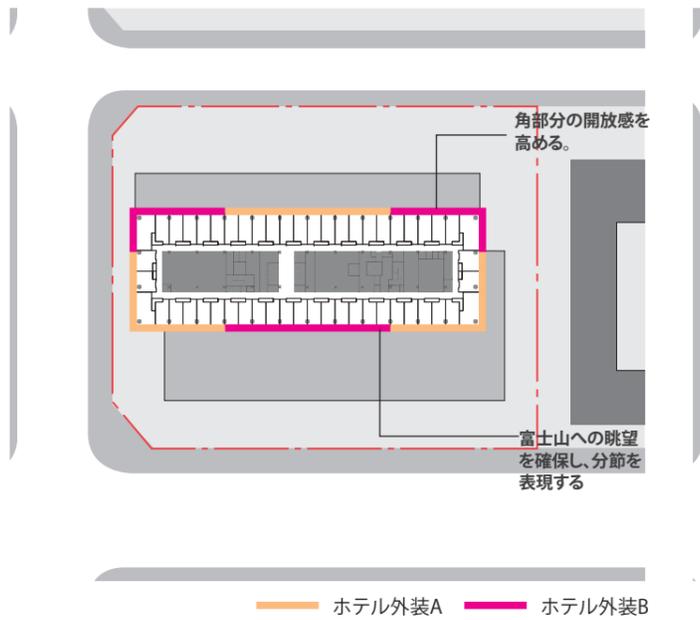
角部屋や富士山側など眺望のよい部屋の窓高さを变えることで、素晴らしい眺望を来街者にアピールすると共に、圧迫感を低減するように分節を行う。

□中層部(オフィス)の分節の考え方

中層部に2種類の外装を用いてファサードに変化を付けることで分節を行い、圧迫感の低減を図る。

立体的なボリューム感の分節

各用途ごとの眺望に合わせ、外装に変化をつけることで、多様なボリューム感の組み合わせとなる外観とし、周辺建物と調和した群としての景観を形成する。



みなとみらい大通りから



グランモールから

海側

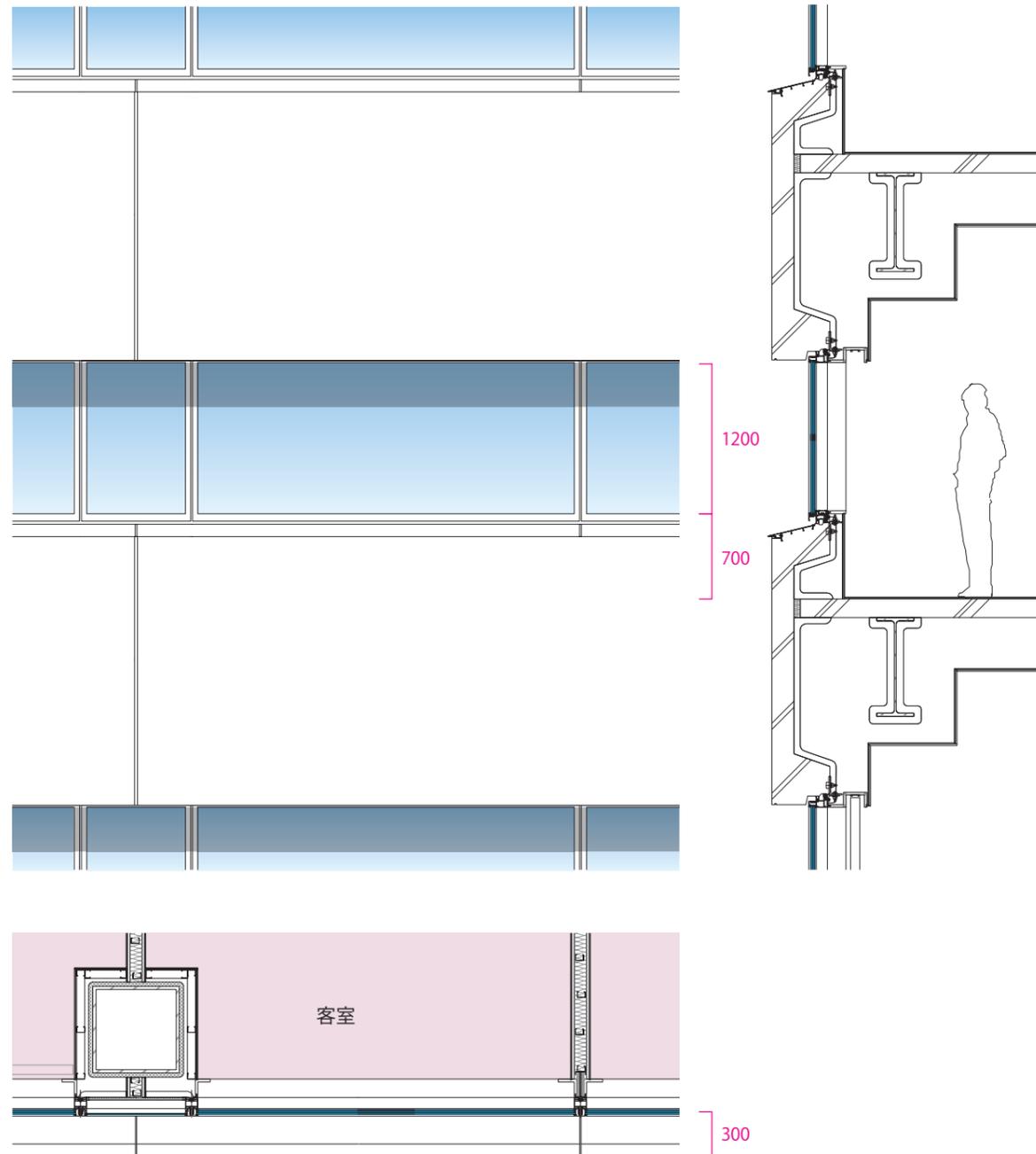


山側

— ホテル外装A
 — ホテル外装B

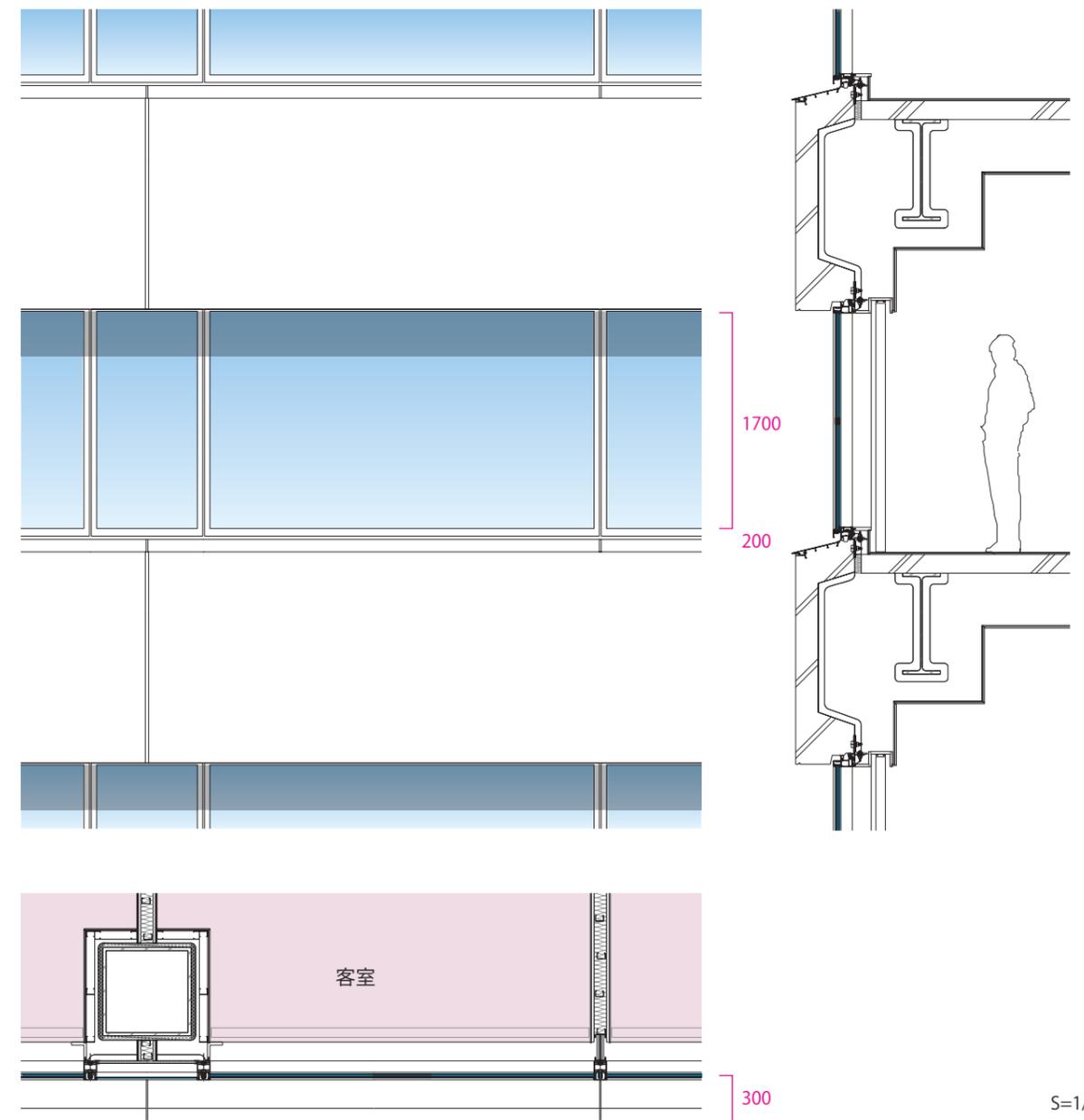
ホテル外装A

客室からのワイドビューを獲得する横連窓の外装

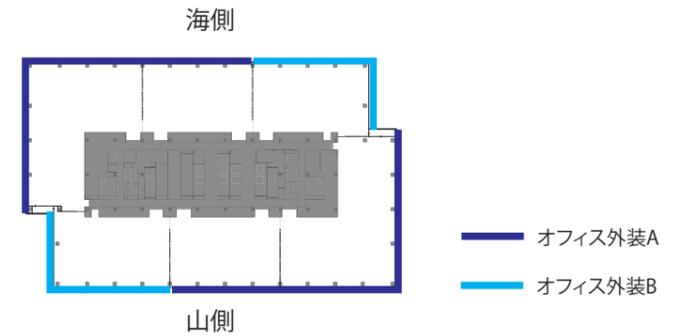


ホテル外装B

港側の角部屋や富士山側の部屋の開口部高さを高くした外装

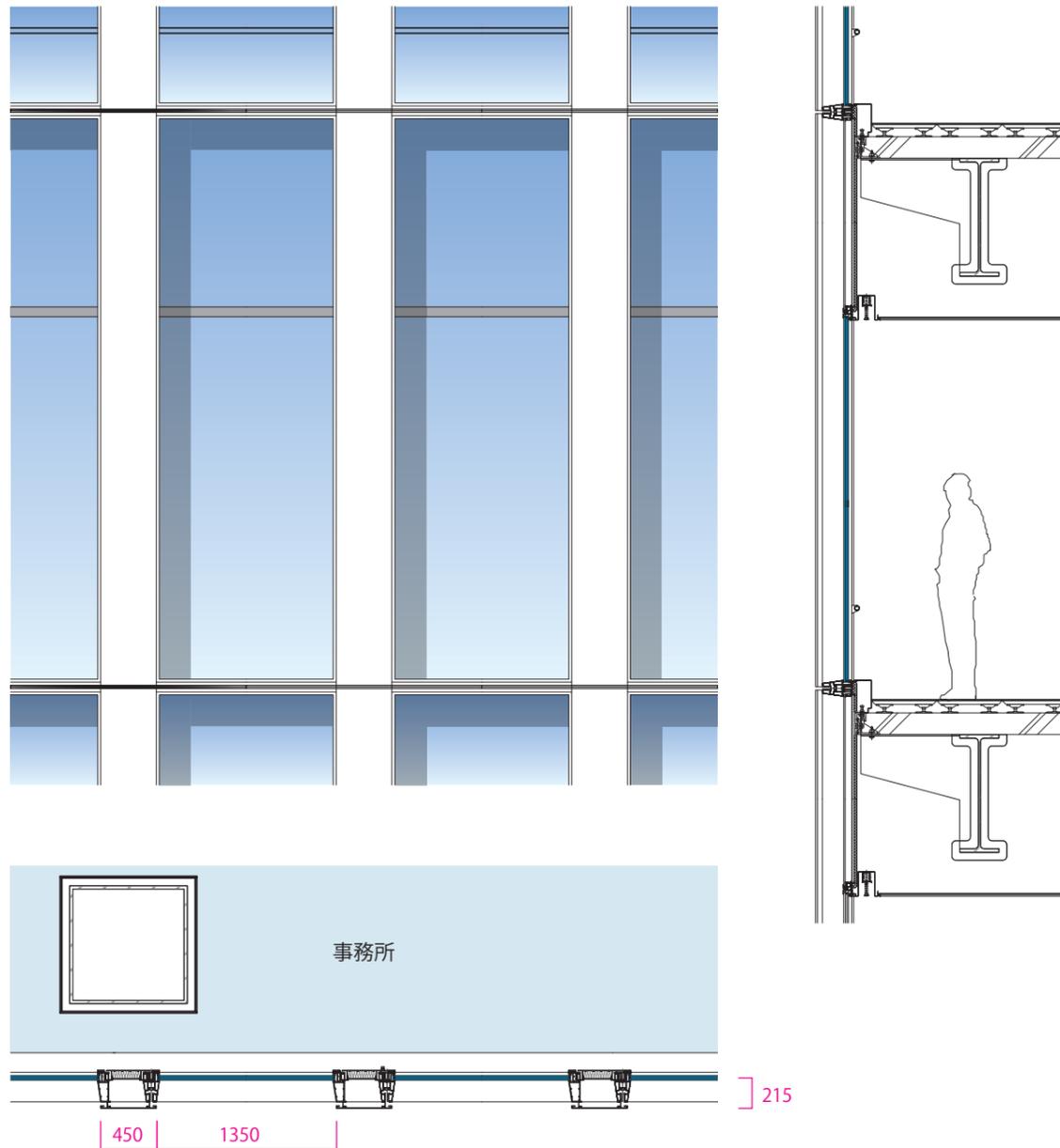


S=1/400



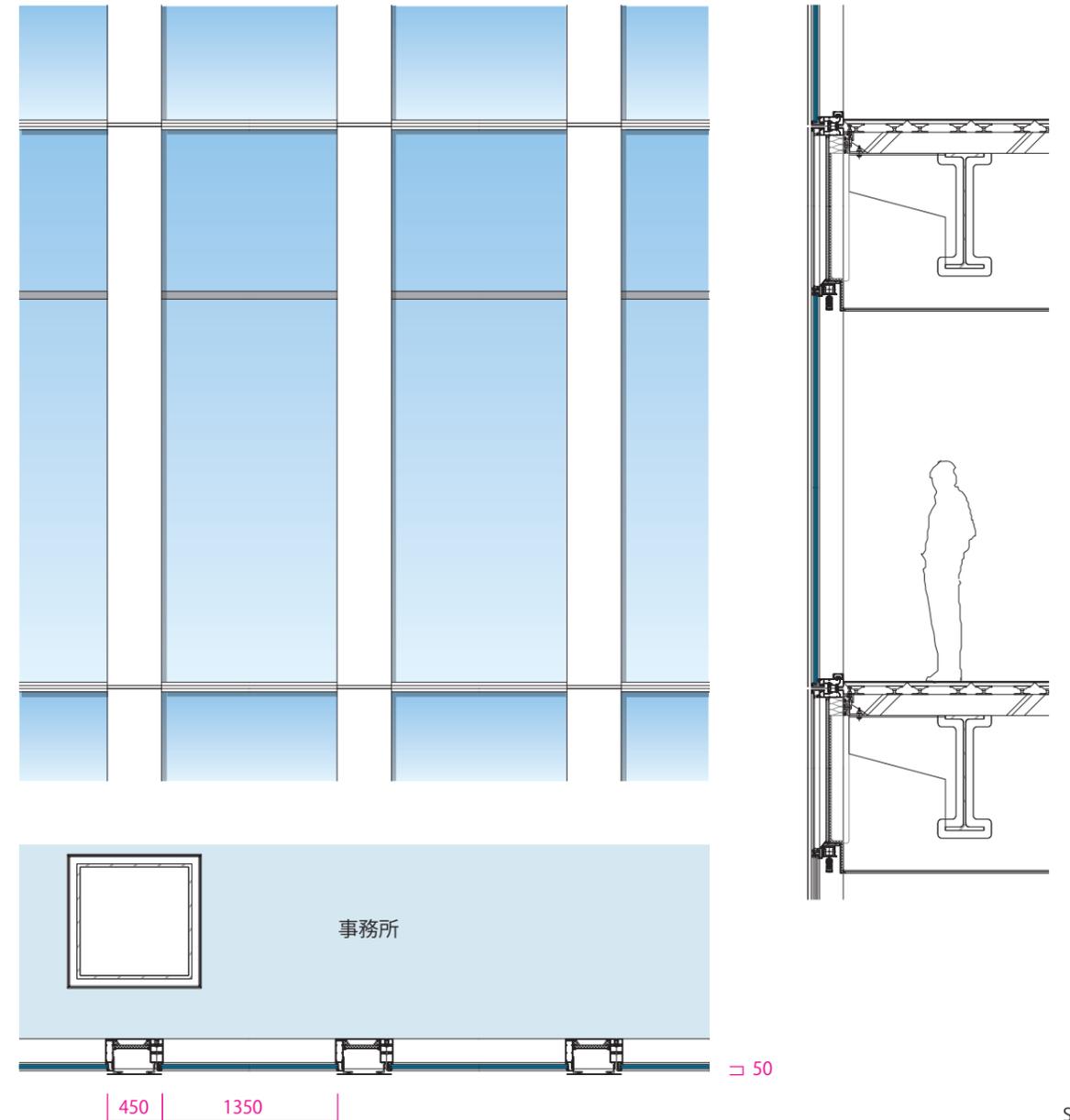
オフィス外装A

方立よりも、200mm程度ガラスを引っ込めることで、環境性能を高めるとともに、外装に陰影を与えることを意図している。



オフィス外装B

方立とガラスを同面に納めることで、より光を明るく映し出す効果を意図しており、外装Aとの見え方の違いを演出することで、建物の顕示性を高める。



みなとみらい大通り沿いの風格ある沿道景観の形成

高層部は、ランドマークタワー及び三菱重工ビルとの連続性を感じられるPCとカーテンウォールの横連窓とする。
また、色彩についてもみなとみらいの景観形成ガイドラインに合致した、暖色系の色を選択し、周囲の街並みとの調和を図る。
中層部には2種類のカーテンウォールによる分節を施すことで、ファサードに変化をつける。



みなとみらい大通りから①



みなとみらい大通りから②

■ グランモール方面の街並みと調和した景観の形成

グランモール側の高層部は、両端部の外装高さを変えてガラス面積を増やすことで、建物全体により軽やかな印象を与え、圧迫感の低減に寄与している。また、高層部・中層部それぞれで外装の切り替えによる分節を行うことで、周辺建物と調和した景観を形成している。



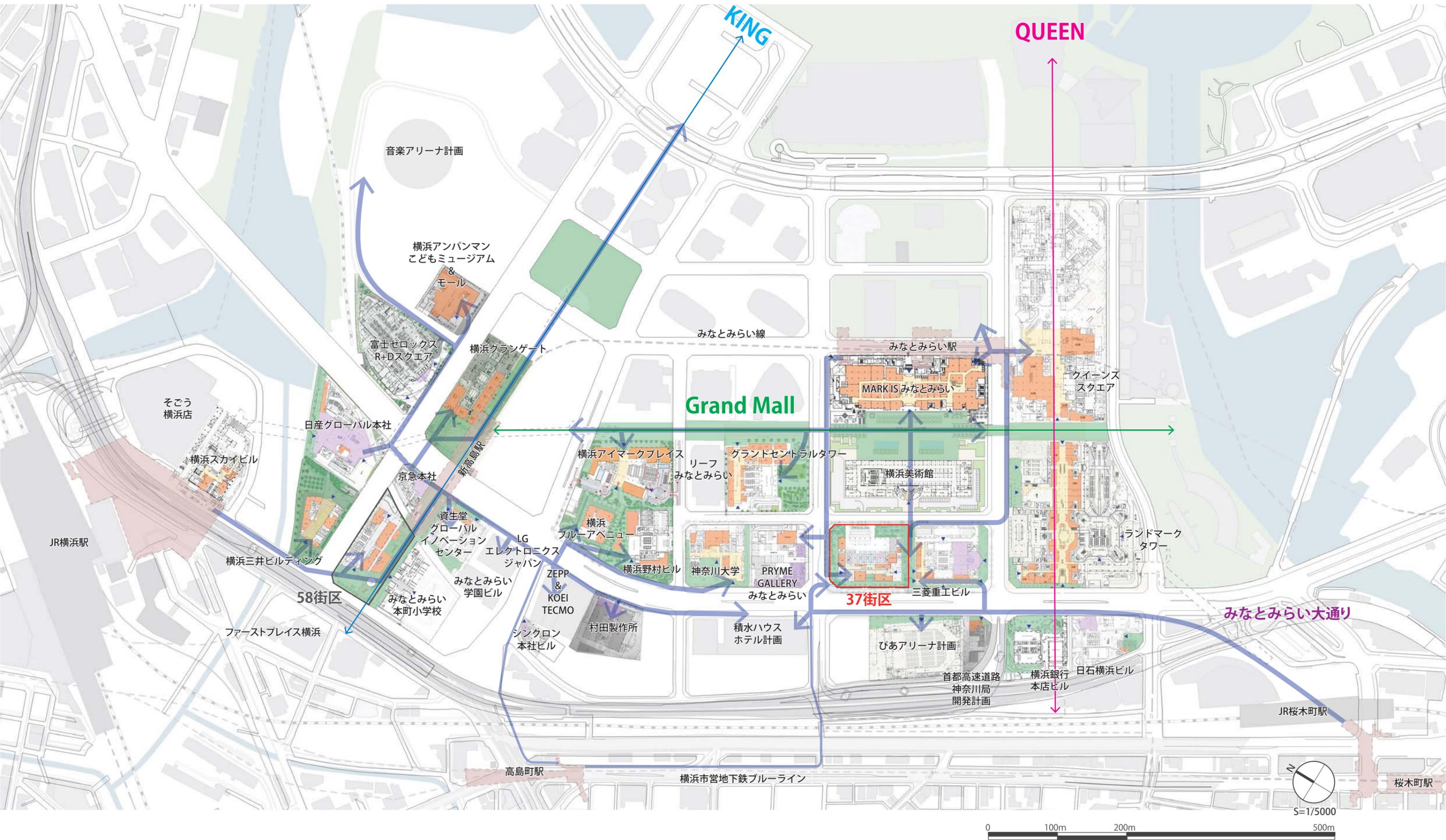
42街区方面から

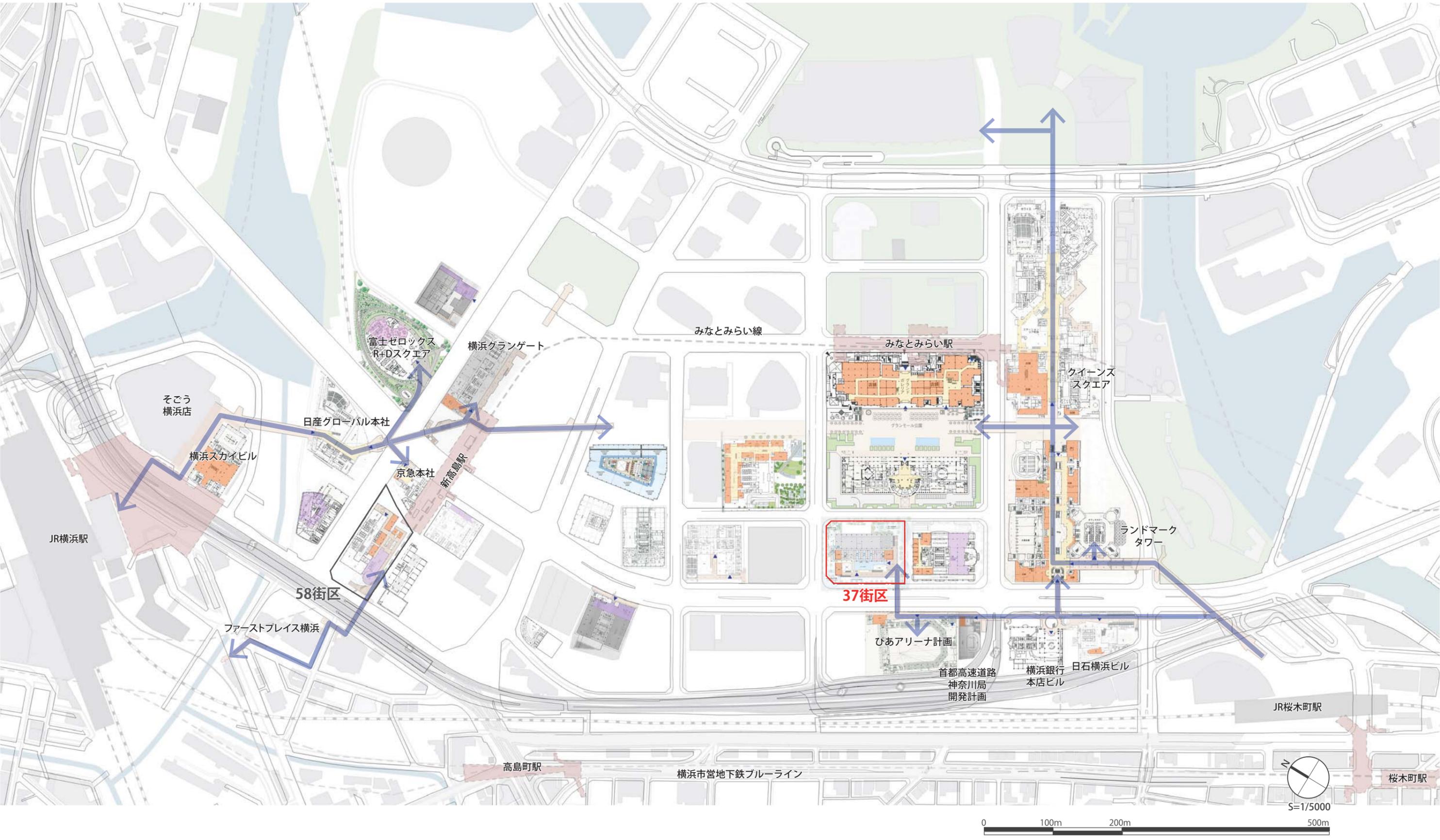


クイーンズスクエア方面から



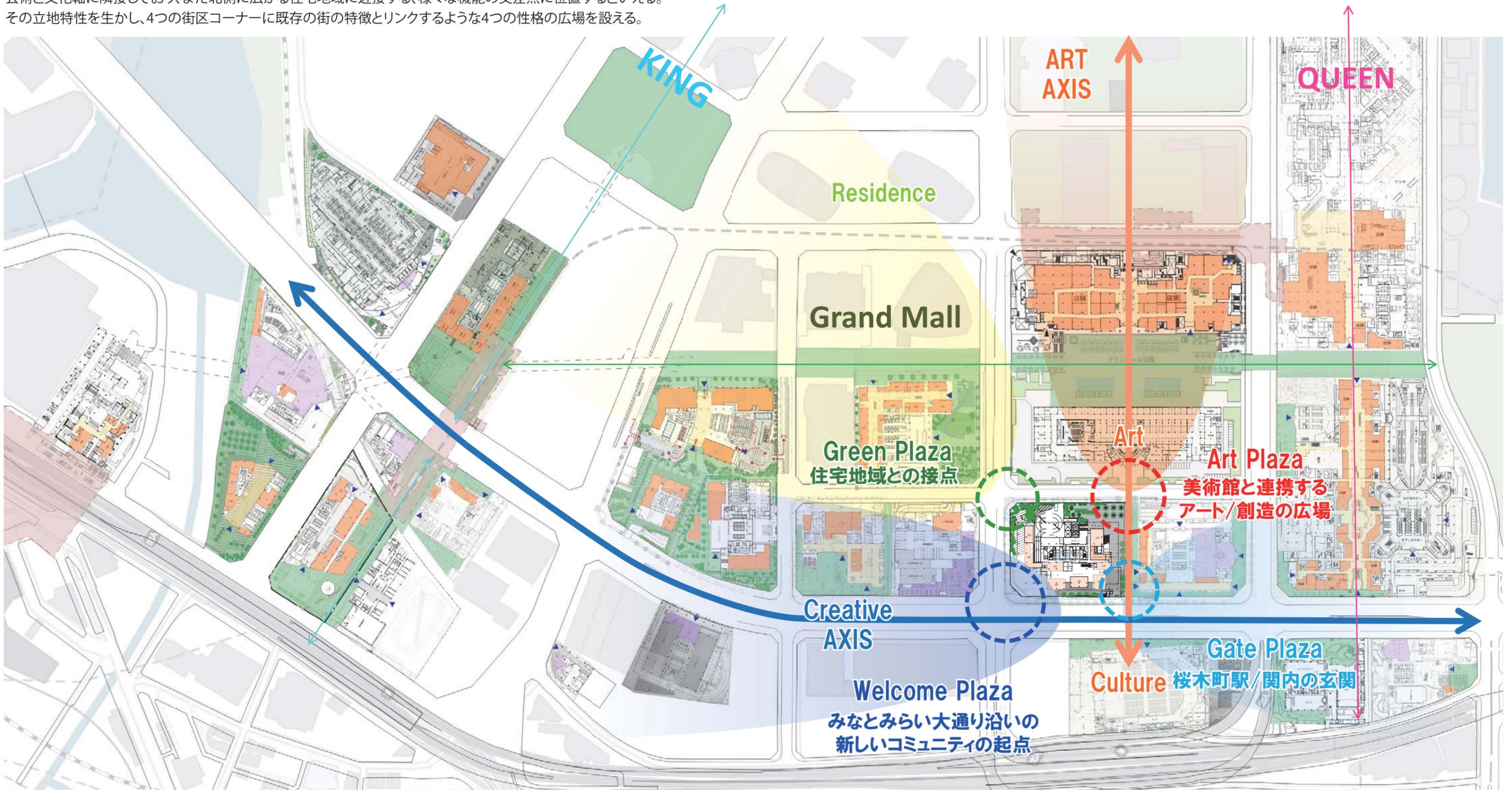
美術館前から





■ 街区コーナーを特徴づける広場

本計画地は、みなとみらい21中央地区計画によるビジネスゾーンに位置するとともに、横浜美術館とびあアリーナを結ぶ芸術と文化軸に隣接しており、また北側に広がる住宅地域に近接する、様々な機能の交差点に位置するといえる。その立地特性を生かし、4つの街区コーナーに既存の街の特徴とリンクするような4つの性格の広場を設える。



横浜美術館
エントランス

「芸術と文化軸」

改善点①

前回都市美審時にアートプラザに面していた立体駐車場を地下化することで、アクティビティフロアを配置した。それにより、アートプラザに向けて賑わいを積極的に表出することで、閉鎖的に見えなような設えが可能となる。

至 グランモール・横浜美術館

地街路6号線

グリーンプラザ
(コモンスペース)

アートプラザ
(コモンスペース)

アクティビティフロアに対する滞留空間
コモンスペース

アクティビティフロアに対する滞留空間
コモンスペース

いちよう通り

改善点③

動線の予測分析から、オフィスのメインの通勤動線をいちよう通り沿いからと位置付け、人の動きがより感じられるようなESCの配置を行う。

ウェルカムプラザ
(コモンスペース)

ゲートプラザ
(コモンスペース)

インナーモール

コモンスペース
アクティビティフロアに対する滞留空間

至 横浜駅・新高島駅

至 JR桜木町駅

改善点②

ウェルカムプラザの面積を広げることで、みなとみらい大通り沿いの玄関口としての性格を強めるとともに、車からの視点も意識して、建物の顔となるようなダイナミックな空間構成とする。

都市内幹線(みなとみらい大通り)

改善点⑤

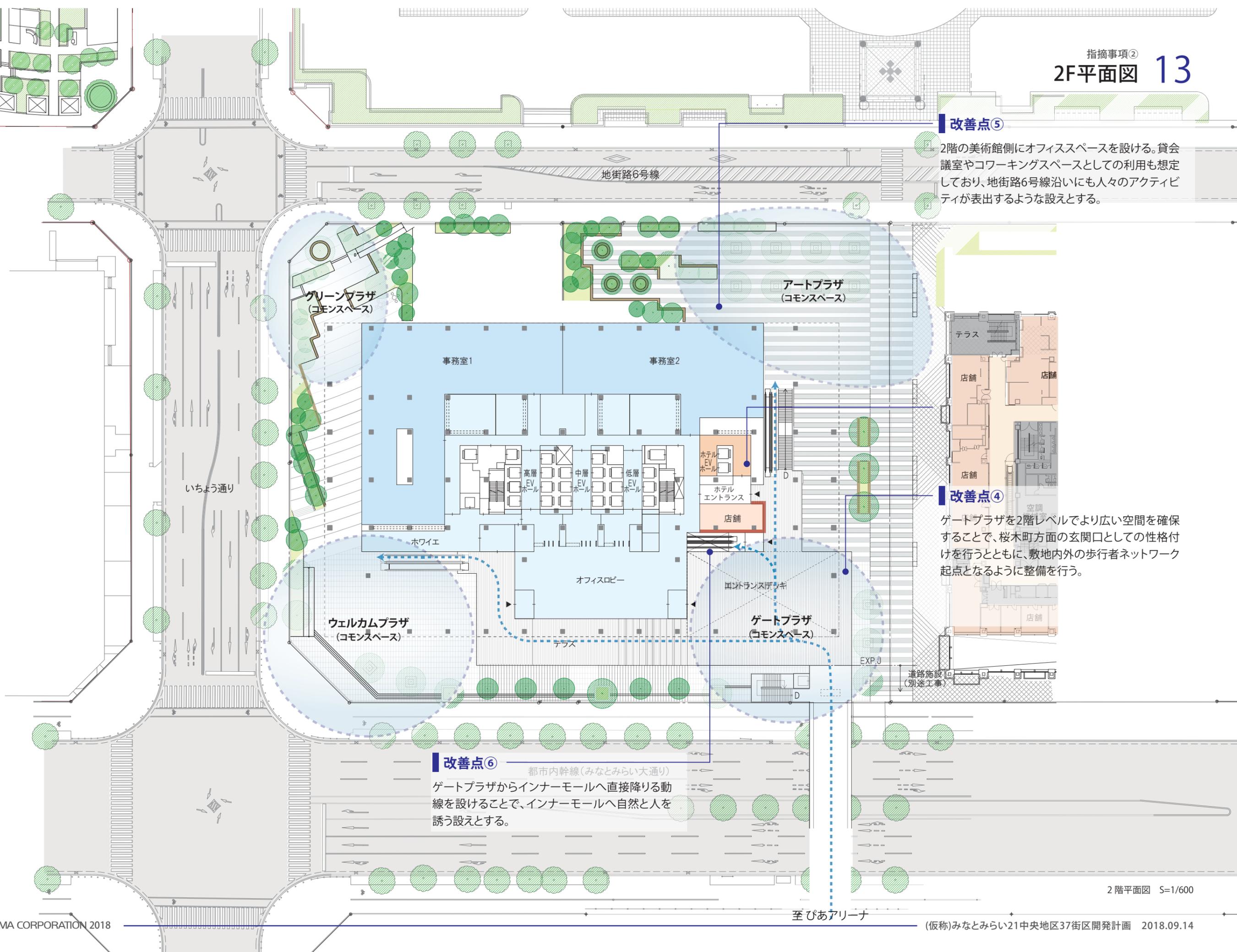
2階の美術館側にオフィススペースを設ける。貸会議室やコワーキングスペースとしての利用も想定しており、地街路6号線沿いにも人々のアクティビティが表出するような設えとする。

改善点④

ゲートプラザを2階レベルでより広い空間を確保することで、桜木町方面の玄関口としての性格付けを行うとともに、敷地内外の歩行者ネットワーク起点となるように整備を行う。

改善点⑥

都市内幹線(みなとみらい大通り)ゲートプラザからインナーモールへ直接降りる動線を設けることで、インナーモールへ自然と人を誘う設えとする。



ウェルカムプラザ

- ・みなとみらい大通り沿いに今後醸成する新しいコミュニティの起点、玄関口となる広場
- ・大きな庇の下で、平日を中心に多くの人が行き来する日常的な賑わいの創出を行う
- ・車からの視点も意識して、建物の顔となるような2層吹抜けのダイナミックな空間構成とし、アイキャッチとなるようなデザインを行う
- ・インナーモールと一体的につながり、オフィスワーカーのための飲食・物販を中心とした店舗配置を行う



大きな庇が出迎える



建物の顔となる



奥にグリーンプラザの賑わいを感じる

店舗の賑わいが広場に顔出し

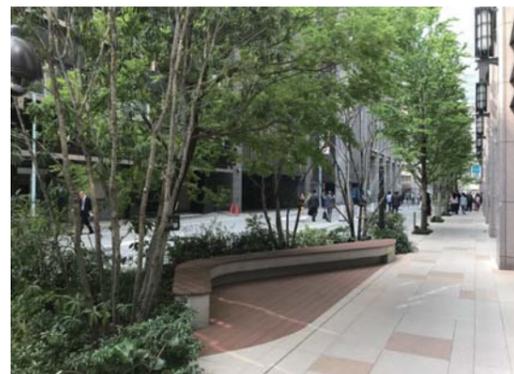
ウェルカムプラザパース

グリーンプラザ

- ・グラウンドセントラルタワーと呼応するような緑の多い憩いの場
- ・緑の中の小割の空間とし、大小様々なコモンスペースが連担するヒューマンスケールの広場
- ・住宅地に近い立地を生かし、周辺住民の人を呼び込むカフェやレストランなどの店舗配置を行う
- ・周辺の生物環境にも配慮し、多様な種による緑化を計画



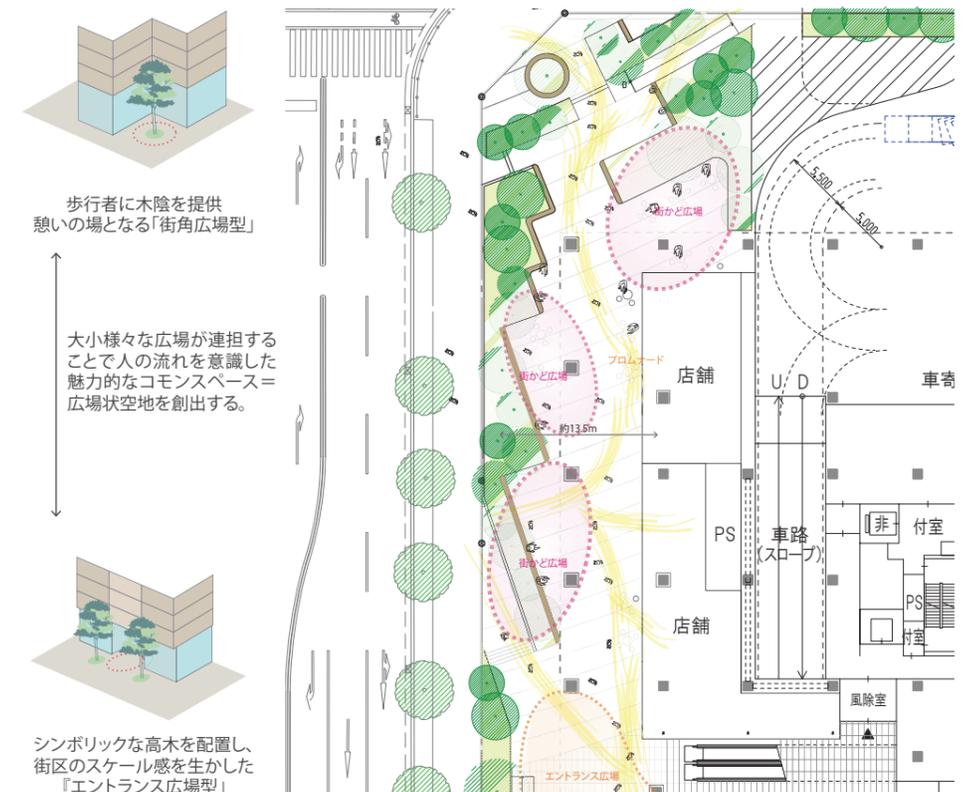
緑の小割の広場



ヒューマンスケールの広場



木陰のテラス席



アートプラザ

- ・美術館及び隣地三菱重工ビルと一体となり、本計画で最も広い面積を確保できる広場であり、その面積を生かして、イベントなどに利用できる広い空間やヒューマンスケールな空間を混在させる
- ・休日には、イベントなどに利用が可能となり、非日常な賑わいを演出する
- ・アートの展示や、アート蚤の市の開催など、美術館と呼応するようなイベントの開催も検討
- ・平日はオフィスワーカーを中心としたの憩いの場とし、オープンミーティング等にも利用が可能



イベントに利用可能な広場



パフォーマンスアートなどによる賑わい



アートの彩り



アートプラザパース

ゲートプラザ

- ・桜木町駅からの人の流れを受け止める、ゲートとしての広場であり、敷地内外の歩行者ネットワークの起点となる
- ・アートプラザへの導入空間として、ペDESTリアンウェイ沿いの通景を確保する
- ・オフィスロビーと一体となった広場空間であり、中間期にはオフィスワーカーの打ち合わせ等にも利用が可能



中間期には打ち合わせ等にも利用可能



ゲートプラザパース